東京市銀座西八ノ九　民友社　徳富蘇峰先生　／京城府孝子町一七五番地　李光洙

京城も春らしく相成、庭除[[1]](#footnote-1)の桜未だ綻びざるも蕾ふくらみ、花信風とやら、晝頃から毎日吹居候。東都は已に花盛りならむと推察申上候。先生修史の筆[[2]](#footnote-2)、愈健やかなり玉へと御祈申上候。

異次頓はご承知の如く、朝鮮史上最初の殉教者にて、榮幸をも愛慾をも生命をも、眞理と信念の為には弊履の如く棄てたる者、貴きその生涯を小説化したるが、御贈呈の拙著に御座候[[3]](#footnote-3)。諺文故御高覧の榮を得る由なきが遺憾なれども、先生の書架に此の小弟子の著書が一冊押さるゝ丈にて満足に存候。早々

丁丑四月十一日　李光洙再拜

1. 「庭除」は「庭」の意。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 蘇峰が1918年から執筆を始め、1952年に全100巻を書き終えた『近世日本國民史』を指すと思われる。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 『異次頓』はこの月に漢城図書から刊行されている。 [↑](#footnote-ref-3)